

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力を持った生徒を育成する。	① 計画的、効率的な授業の展開	1 シラバスや面談などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	「主体的で計画的な学習ができている」生徒の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は58.0% (+40.4) と前年度比較では大きく向上したが、目標には届かなかった。	B	B	きめ細かな指導が為されていると感じる。また、自分の目標を早くからしっかり持っている生徒も多い。一方で、学校の決まった計画の中で、主体的に考えたり自分の動向をつかめていない生徒も増加傾向にあるのではないかと。協働的問題解決学習の中で、自分自身の将来設計まで見通したより充実した活動にしてほしい。	学習に対する生徒のさらなる意識改革に積極的に取り組む必要がある。
		2 始業のチャイムを守り、授業時間の確保を図る。	「始業チャイムと同時に授業を始められている」教職員の肯定的評価95%以上	教職員の肯定的評価は95.8% (-2) であり、目標は達成できた。				次年度以降も継続して実践していきたい。
	② 指導方法の工夫・改善	1 教員相互の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	「授業力向上に授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	年間2回以上の授業公開週間を設けるとともに、協働的問題解決学習に全教員で取り組み、積極的に授業改善に努めた。教職員の肯定的評価は91.5% (+0.2) であり、目標はほぼ達成できた。	B	(所見) 本年度より第2期SSHの取り組みで、全生徒対象として「協働的問題解決学習」に取り組んでいるが、その中で全教員がアクティブラーニングを用いた授業を実施した。相互の授業を参観したり、教科会等で話し合いをしたりすることで、授業の改善や工夫に繋がっており、教員の意識も向上した。	協働的問題解決学習を中心に、授業力向上の取り組みを今後も継続する必要がある。	
		2 各教科で定期的に教科会を開催し、学習指導の方法の工夫や改善について検討する。	「教科会を指導方法の工夫や改善に繋げることができた」教職員の肯定的評価80%以上	教科会を適宜開催し、指導法の改善に努めた。教職員の肯定的評価は85.4% (+0.8) であり、目標は達成できた。			定期的に教科会を開き、適切な評価方法や指導法を検討する必要がある。	
		3 定期的に課題や反省ノート(定期考査・実力テスト・校外模試)を提出させて、学習内容の定着を図る。	「課題・反省ノートの提出率」90%以上	生徒の提出率は、国語85%、数学80%、英語84%であり、目標を達成できなかった。			テスト反省の意義を理解させ、意欲的な取り組みをなお一層促す。	
	③ 学習習慣の確立	1 小テストを実施することにより、主体的な学習を促し、基本事項の定着を図る。	「小テストの7割以上得点者数」70%以上	小テストの合格率は、国語70%、数学70%、英語76%であり、目標を達成できなかった教科もあった。	B	アクティブラーニングの実施により、授業における生徒の主体的な取り組みの意識は向上したが、家庭学習での主体的で計画的な学習については、まだ意識が低くさらなる取り組みが必要である。	小テストを継続するが、内容の精選や効果を上げることができるよう工夫が必要である。	
		2 「生活の記録」を活用して生徒の現状を理解し、学級担任が中心となって学習方法などについて適切なアドバイスを行う。	「生活の記録等を利用して生徒の実態を把握し、日常的に指導ができています」教職員の肯定的評価60%以上	各学年の実態に応じて生活の記録等を活用し、指導に生かすことができた。教職員の肯定的評価は85.0%であり、目標は達成できた。			生活の問題点の把握と学習の偏りをなくすような効果のある面談などの取り組みを検討していく。	
	④ 目的意識を持った学習態度の育成	1 予習・復習を促す週末課題を作成し、自主的・計画的な学習習慣を育成する。	「週末課題は学習の習慣化に役立った」生徒の肯定的評価70%以上	週末課題は積極的に実施できたが、生徒の負担感が増している。生徒の肯定的評価は63.6% (-3.5) であり、前年度比較でも下降した。	B	家庭学習時間については、1年生は1時間未満の生徒が年度当初より増加した。学校に慣れ気が緩んだ生徒が増えたと思われる。2年生は年度当初より減少したが、3年生になる心構えができつつあると思われる。	課題が主体的な学びの妨げや加重負担にならないように、量や質についての検討と教科間の連携が必要である	
		2 定期考査・実力テスト・校外模試に向けて、主体的・計画的に学習させ、進路目標の実現に向けて努力させる。	「定期考査・実力テスト・校外模試に向けて計画的に学習している」生徒の肯定的評価70%以上	定期テスト前に集中学習時間を設けるなど、生徒に働きかけたが、生徒の肯定的評価は64.3%であり、目標は達成できなかった。			PTA事業に多くの保護者が参加していると思っていたが、評価が意外と低い。今後は家庭教育研修部とも連携を図り、呼びかけをしていくことが大切だと思う。また学校側も保護者が求めている情報を適宜把握して提供していくことが必要だ。	
		3 定期考査・実力テスト・校外模試の結果を有効に活用させる。	「定期考査・実力テスト・校外模試の反省・復習を行っている」生徒の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は57.0% (-10.9) であり、目標は達成できなかった。			学習到達度や学習意欲の低い生徒には個別指導も行う必要がある。また、成績上位の生徒に対する指導も検討していく必要がある。	
	⑤ 家庭学習の充実	1 家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し指導に活用することで、学習習慣を育成する。	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上	平均家庭学習時間(5回の家庭学習時間調査の平均による) 平常日1年2.5時間(昨年2.2時間)、2年2.3時間(昨年2.3時間)、3年3.6時間(昨年3.5時間)、全学年平均2.76時間(昨年2.66時間)で目標には届いていない。	B	ホームページは今年度は頻りに更新したが、保護者への浸透はできていない。	家庭学習時間は全体的に上昇している。この習慣づけを継続する一方で、自主的・主体的な学習に繋げていきたい。	
		2 学年集会などを利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、家庭での学習習慣を定着させる。	家庭学習時間調査による1時間未満の生徒の割合を年度当初より10%以上減少させる	学年集会を1・2年生ともに10回以上実施し、卒業生による学習方法についてのアドバイス等も聞く機会を設けるなど、学習時間の確保について促した。家庭学習時間1時間未満の生徒の割合の変化: 1年1.44%→3.88% 2年4.83%→2.97% 1年では年度末にかけて上昇、逆に2年では減少している。			学習習慣の形成に加えて、進路意識を向上させる働きかけが重要である。	
	⑥ 興味・関心を高める教育	1 確かな学力を定着させるため、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。	「よくわかる授業を実践することができた」教職員の肯定的評価80%以上 「先生の授業はよく理解できた」生徒の肯定的評価80%以上	教職員の肯定的評価は87.0% (+3.5)、生徒の肯定的評価は82% (-6.2) であったが、目標はほぼ達成できた。	A		今後も協働的問題解決学習を中心に、授業改善に取り組んでいく。	
		2 魅力あるSSH事業を展開し、知的好奇心を向上させる。	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価60%以上	本年度から文理融合の取り組みを進め、「脇高を出よう」、「脇高チャレンジ」など新しい事業を展開し、12月に実施したSSHに関する生徒意識調査の肯定的評価は67.1%であった。			生徒に意欲的に取り組ませるため、早い時期に興味の説明をするとともに、しつけや工夫が必要である。	
⑦ 家庭との連携	1 PTA総会や学年PTAへの積極的な参加を促す。	「保護者のPTA総会・学年PTAの参加者数」参加者数の割合を50%以上とする。	PTA総会参加者は306人で49% (+7) であった。学年PTA参加者は1学年が107名で51% (+3)、2学年が99名47% (-2)、3学年が135名67% (+14) であった。目標の達成はできなかったが、全体的に増加している。	B		普段からの連携を密にすることと、効果的な情報発信に心がけていきたい。		
	2 迅速にホームページを更新し、最新の情報を提供する。	「ホームページは、学校の活動状況等を理解するのに役立っている。」保護者の肯定的評価70%以上	昨年度の倍以上の150回程度更新を行い、最新の情報を提供することができたが、保護者の肯定的評価は62.8% (-2.6) であり、目標は達成できなかった。			ホームページを速やかに更新し、それをPTA総会や学年通信などで広報することも必要である。		

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題	
夢を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	① 望ましい職業観・早期の進路意識の育成	1 W-ingプラン/SW-ingプランの活動、職業調べ、学部・学科研究、講演会等に積極的に取り組ませる。	「W-ing/SW-ingプランの進路学習は進路選択に役立った」生徒の肯定的評価65%以上	生徒の肯定的評価は63.5% (-4.4) で目標値には届かなかった。	B	B	様々な活動が為されているが、生徒の意識向上や思考力・判断力・表現力の育成に繋がっていると思う。難関大学へ進学できる高校が地元にあると言うことは地域にとっては有難いことなので、今後も維持してほしい。	直接的には進路選択に関わらない活動もあると思われるが、様々な活動を有機的に連動させて生徒が実感できるようにしたい。	
		2 S S H活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	「S S H活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」生徒の肯定的評価60%以上	12月に実施したSSHに関する生徒意識調査の進路選択に関する設問（問4+問5+問6）の平均値は62.9% (+4) で目標値を上まわった。				さらに充実した事業となるよう、生徒や教員の意見を参考にして改善を図る。	
		3 「道標」の内容の充実に努めるとともに、各種の進路情報をわかりやすく提供する。	「進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価70%以上	保護者の肯定的評価は87.9%(+6.3)、生徒の肯定的評価は69.2%(+3.6)であり、概ね達成できた。				入試環境の変化に即して情報提供を行い、「道標」の内容を改訂していく。	
	② 個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	1 三者面談に加え、必要に応じて個別面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	「面談や個別指導等を通して、生徒に応じた進路指導ができて」「先生は面談などを通して、進路についてよく指導してくれている」生徒の肯定的評価85%以上	各学年において積極的に実施することができた。生徒の肯定的評価は82.1%(+2.9)、保護者は87.8%(+2.2)であった。	B	B	「望ましい職業観・早期の進路意識の育成」については、概ね目標を達成できた。今後、W-ing/SW-ingプランがもっと進路選択に活用されるようにしていく必要がある。	生徒一人ひとりにとっての、より効果的な面談の方法や、それを実現するための体制作りを行う。	
		2 小論文・ディベート・プレゼンテーション指導を充実させ、論理的言語能力の育成を図る。	「小論文・プレゼン・ディベート学習は進路実現に役立っている」生徒の肯定的評価70%以上	人口減少社会についてのプレゼンを全学年で実施し、成果を発表するなど全員で取り組んだ。生徒の肯定的評価は65.0%(-4.6)であり、目標値には届かなかった。				新聞や書籍・インターネットの利用に対する評価が少なく、これは生徒自身が精選して利用しているからだろうか。的確なものを見て、的確に判断できるのが大切なので正しい認識がなされていると肯定的に捉えることができる。アンケートの評価にこだわる必要はないと考えられる。	協働的問題解決学習と連動させ、取り組み内容のさらなる充実を図り、進路意識の向上につなげていきたい。
	③ 生徒保護者が希望する進路目標の達成	1 日常の取り組みを学習成績に反映させ、進路実現に結びつける。	「生徒・保護者の希望の高い国公立大学への合格者数」在籍数の50%以上	国公立大合格者106名（3月10日現在 昨年同期90名）	B	B	面談や個人指導は昨年より肯定的評価が向上したが、一人でも多くの生徒が満足するよう取り組む必要がある。	生徒・保護者の進路希望が実現することを第一目標にして学校活動を適切にマネジメントすることが、目標の達成につながる。	
		2 学習と部活動の両立を図りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮して活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	定期テスト前は集中学習時間の導入や部活動の制限を設けるなど、両立を図るよう取り組んだ。生徒75.2% (+0.4) 保護者73.5% (-0.5) から肯定的評価を得たが、目標を達成することはできなかった。				各顧問の連携を図り、生徒・保護者とも連携を取り、練習計画を立てていく。	
	④ 将来、社会において活躍しうる協高生の育成	将来、社会において活躍しうる協高生の育成	1 学校祭や球技大会などの学校行事へ積極的に参加することにより、協働意識を高める。	「学校祭や球技大会は生徒中心の運営で楽しく充実している」生徒の肯定的評価80%以上	生徒からの肯定的評価は86.4% (-2.3) で、目標を達成し、生徒主体で学校祭や球技大会が運営できた。	B	B	文化祭や体育祭等の学校行事に、保護者や地域の人の参加が多いことはありがたいことだ。地域に開かれた活動になるよう今後も検討してもらいたい。	継続的に生徒主体で運営できるように、支援していく。
			2 HR活動や生徒会活動を通して社会性を育てる。	「生徒会活動は学校生活がよりよくなるように活発に活動できている」生徒の肯定的評価80%以上	知事によるキャリア教育講座や主権者教育講座を実施し、生徒の社会性を育成するよう努めた。生徒からの肯定的評価は74.7% (+11.2) で、昨年度より上昇したが、目標には届かなかった。				18歳から主権者となることに伴って、より生徒会活動を充実させていく必要がある。
			3 協高生にふさわしい身だしなみ・言葉遣い・時間厳守など、社会人として必要な態度や習慣を育成する。	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活ができて」「生徒の肯定的評価85%以上	毎週ホームルームで指導するとともに、学期ごとに身だしなみ検査を実施している。生徒からの肯定的評価は84.1% (-0.6) で、目標には届かなかった。				生活について、町内ではよく挨拶をしている。交通マナーについては、登下校の際に危険だと感じる事もあるので継続して指導してほしい。
	⑤ 将来、社会に貢献しようとする人材の育成	将来、社会に貢献しようとする人材の育成	1 ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	「各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価60%以上	ボランティア活動に積極的に参加していると評価した生徒は45.3% (-2.9) で、目標に大きく届かなかった。対策を考えたい。	B	B	積極的に募集案内をすると同時に、校内外の活動の意義についても、生徒の意識づけを図る必要がある。	企業研修は、事前準備と事後のまとめのあり方をしっかり行う。
			2 修学旅行の自主研修「企業・官公庁等訪問」やその事前研究、事後発表を充実させ、社会への関心を高める。	「修学旅行の自主研修に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の割合80%以上	修学旅行の研修については、事前研修を5回程度実施し、研修後はポスターを作成し、掲示するなど、他の研修参加者と意見交換を行った。93%の生徒が満足しているとの回答があった。				
	⑥ グローバル化に対応できる人材の育成	グローバル化に対応できる人材の育成	1 生徒の英語学習への意欲を高めるとともに、国際理解教育の充実やコミュニケーション能力の向上を図る。	「英検やGTECの受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価70%以上	GTECの受検、ALTとの授業に主体的に90%以上の生徒が取り組んだが、英検受検は学校全体で20%に留まった。	B	B	GTEC、英検受検の意義を説明し、さらに推進していく。また、ALTの活用機会をさらに増やす。	教科指導とのバランスを図りながら協働的問題解決学習や小論文指導を通して社会への関心を高める取り組みを行っていく。
			2 新聞・書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	「社会の様々な問題に興味・関心を持ち、新聞・書籍・インターネット等を利用している」生徒の割合が70%以上	協働的問題解決学習や小論文指導を通して取り組み、生徒の肯定的評価は56.1% (+8.3) と高くなったが、目標は達成できなかった。				

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
3 自尊感情を養い、仲間と協働できる心豊かで公共心と社会性を備えたたくましい生徒を育成する。	① 環境美化・防災に対する意識の向上	1 清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組み、快適な環境で学習する。	「ゴミの分別はきちんとするよう心がけている」 生徒の肯定的評価85%以上	ゴミの分別は82.4% (-5) と生徒の意識が下がっている。	B	B	文化祭の時の防災コーナーについていい取り組みであるが、場所的に分りづらかったように思う。部外者が来たときでもよく分かる所に展示してはどうか。	今年度はゴミの分別が前年度より下回った。来年度以降も環境ISO活動を引き続き実施し、ゴミ箱の数や缶・ペットボトル等のネームプレートの増やして、細分化の分別を心がけたい。いつ起こるか分からない東南海地震に備える為にも防災に関心が持てるよう引続き参加体験型訓練などを取り入れていきたい。
		2 参加体験型訓練など、体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	「防災訓練には、関心を持って積極的に参加している」 生徒の肯定的評価85%以上	防災訓練に加え、防災クラブ活動として文化祭で非常食の案内や試食コーナーの設置、寝袋体験なども実施した。また4名の者が防災士の資格を取得した。防災について関心を持っている生徒は71.1% (+11.5) と意識も向上している。				
	② 集団や社会の一員として協力	1 各課や学年との連携を密し、ホームルーム活動の内容を充実させる。	「ホームルーム活動に積極的に取り組んでいる」 生徒の肯定的評価75%以上	ホームルーム活動に積極的に取り組んでいると肯定的に評価した生徒は、78.2% (+3.4) で目標を達成できた。	B	B	本年度より「防災クラブ」の活動が始まり、文化祭等での展示や防災士の資格取得など目に見える活動があり、生徒の防災に対する意識も向上がみられたが、まだ目標には達していない。	学年団、担任、副担任が連携を取り、さらにホームルーム活動を工夫し、充実させていく。
		2 部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、協力できる生徒を育成する。	「部活動を通して好ましい人間関係ができていく」 生徒の肯定的評価85%以上	肯定的に評価した生徒は80.8% (-2.6) の生徒が肯定的に評価したが、目標には届かなかった。				
	③ 基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進	1 身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活ができていく」 生徒の肯定的評価85%以上	生徒からの肯定的評価は84.1% (-0.6) で、80%以上の生徒が生活できていると評価したが、目標には届かなかった。	B	B	身だしなみ指導や交通安全・情報モラル指導については共通認識のもとホームルーム等で指導を行っているが目標到達まで至っていない。交通安全については事故が増加したことから、安全意識の向上を目指す必要がある。	引き続き、家庭と緊密に連携しながら適切に個別指導を行う。
		2 バイクの安全運転実施講習会を開き、車体検査を各学期に行う。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	「交通安全・交通マナーについては日ごろから十分に意識し、守っている」 生徒の肯定的評価85%以上、生徒の交通事故を減らす	生徒からの肯定的評価は84.7% (+0.6) で、80%以上の生徒が交通安全意識や交通安全マナーできていると評価したが、目標には届かなかった。				
		3 情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォン等の利用ルールを守らせる。	「学校では携帯電話等の利用時間を守っている」 生徒の肯定的評価85%以上	携帯電話の利用時間を昼休みと放課後に制限し、毎週月曜日に生徒に注意喚起させるなど指導した。生徒からの肯定的評価は79.3% (+34.3) で、昨年度より大きく向上したが、目標には届かなかった。				
		4 すべての生徒について、個人面談や家庭連絡を密に行うとともに、関係機関との情報交換を適宜行う。	「生徒の指導に関して、家庭と緊密に連携しながら適切に対処できている」 教職員の肯定的評価85%以上	教職員からの肯定的評価は97.8% (+12.2) で、ほとんどの教職員が家庭と緊密に連携しながら相談できていると考えている。				
	④ 保健指導の充実	1 時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	「保健だよりの発行」年間10回以上	時節や生徒の生活状況に応じた保健だよりを、毎月1回発行し、季節に合わせた健康管理を生徒に促すことができた。	B	B	教育相談では、悩みを持つ生徒の早期発見や適切な対応に努めてきた。学校外部の相談機関との連携を積極的に取り入れ、相談機能を高めたことにより一定の効果が見られた。今後も早期対応を目指したい。	引き続き、時節や生徒の生活状況に応じた保健だよりを、年間10回以上発行する。
		2 計画的かつ体系的に健康診断を実施するとともに、事後指導を徹底する。	全生徒の定期健康診断受診と、要精密検査生徒の受診率100%及び要治療生徒治療完了率70%以上	要精密検査生徒の受診率は100%であったが、要治療生徒治療完了率は60%に留まった。継続的な事後指導が必要である。				
		3 教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実に努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」 教職員100%	教職員の肯定的評価は93.8% (+2.5) だった。しかし、自信を持って措置できると回答した教職員は昨年度より減少している。教職員全員が自信を持って救急措置を行えるような、救急法講習会の内容にする必要がある。				
	⑤ 教育相談及び特別支援教育の充実	1 教育相談活動について保護者や生徒に周知するとともに、相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	「先生は相談に誠実に対応してくれている」 生徒・保護者の肯定的評価80%以上 「生徒や保護者の相談に、誠実に対応できている」 教職員の肯定的評価90%以上	保護者の肯定的評価は88.1% (+1.9) 、生徒の肯定的評価は84.4% (+4.7) とともに高かった。しかし教職員の97.9%と比較すると、教職員と生徒・保護者の意識の差が見受けられる。悩みを抱えているが言い出せない生徒がいることを常に意識しておく必要がある。	B	B	人権ホームルームの充実に対する生徒の肯定的評価は昨年より低下したが、日常生活に活かそうとする生徒は増加した。今後も工夫した取り組みを行い、意識の向上を図ってきたい。	1年生が今年度実施したキャリアデザインは、多くの教員の面談し、現在の自分を意識することができ、個人の悩みも相談しやすい良い活動だった。今後も活動を充実させていく。
		2 昼食時に教職員が見回るなど、生徒観察を行い生徒理解を深める。職員研修を行うことで職員の共通認識を図る。	「不登校や悩みのある生徒に対して、組織的に対応できている」 教職員の肯定的評価90%以上	4月中は、1年生を中心に生徒と昼食を共にしたり見回りをするなど、昼休みの過ごし方を中心に生徒観察や生徒理解を深めた。自己理解調査の研修などを含め、教職員の肯定的評価は95.8%だった。				
		3 5月に自己理解調査を行い、自己の特性を理解したり人間関係作りのヒントを得たりする。また、人間作りのヒントを学級づくりの指標として活用する。	「生徒は自己理解調査から自己の特性を理解し、仲間作りなどのヒントを得ることができた」 生徒の肯定的評価60%以上 「教職員は自己理解調査を活かし、学級など生徒の居場所作りに努めることができた」 教職員の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は63.4%、教職員の肯定的評価は86.4%だった。教職員は、自己理解調査により特性の理解はしやすくなったが、それを学級運営に活用したり、生徒にアドバイスできるように知識が必要である。				
	⑥ 人権教育の推進	1 「協高人権の日」がより生徒の主体的活動となるよう、人権委員会の持ち方を工夫するとともに、PTA総会や保護者面談だけでなく、人権の日の資料を保護者啓発に十分活用する。	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」 生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は71.1% (+4.5) だった。様々な活動を通して、人権問題について「学び、考える」ことはできていると行動にまでつなげようとする意欲にやや欠けていると考える。	B	B	「保健だより」「図書館だより」の配布や芸術活動への案内を今後も積極的にを行い、心身の調和の取れた発達を目指したい。	人権の日の資料や実施方法を再検討し、生徒自身が主体的に考え、行動できるような活動にしておく必要がある。
		2 人権学習ホームルーム活動の指導案・資料の共有化を図るとともに、参加型体験学習を取り入れるなど体験を重視した指導を行う。	「人権学習ホームルーム活動は充実している」 生徒の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は75.0% (-15) だった。各学年で指導案や資料に工夫をこらし、生徒参加型の人権学習HR活動を展開しているが、ややマンネリ化傾向があり、目標を達成できなかった。				
		3 いじめが起らない環境づくりを推進するとともに、生徒の発するサインを見逃さないよう、定期的にアンケートを実施し、実態把握に努める。	生徒アンケートを学期に1回以上実施	生徒指導課と連携して、いじめアンケートの内容を見直したうえで、各学期に1回アンケートを実施した。結果については学年で共有して実態を把握し、指導に生かされた。				
	⑦ 感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	1 芸術や文化に関する活動を通して、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。	「芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」 生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価は69.4%だった。授業や文化部活動などで多くの知識や技能を学び、生涯学習の基礎を学ぶことができていく。	B	B		授業やコンテストでの評価にこだわるのではなく、深く感動したり、仲間と共感する喜びを味わわせたい。
		2 図書館活動を活発に推進し、読書への関心を高め、感性豊かな生徒を育成する。	「普段からコラムを読んだり、読書に親しむよう心がけている」 生徒の肯定的評価60%以上 図書貸し出し数・入館者数の増加を図る。	図書館だよりを毎月発行し、年1回の校内読書会及びクラス読書会を実施するなど図書活動への啓発に取り組んだ。生徒の肯定的評価56.4% (-1.1) 。また図書の貸し出し数・入館者数前年度と同程度であり、目標を達成できなかった。				

【備考】「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった